「アフリカろう教育の父フォスター」

亀井 伸孝（日本学術振興会／京都大学）

【キーワード】アンドリュー＝Ｊ＝フォスター／アフリカろう教育の父／アメリカ黒人ろう者／アフリカ／ろう教育／アメリカ手話

■はじめに

アフリカは世界第二の面積を持つ広大な大陸である。このアフリカの多くの国々にろう教育をうち立て、今も各地のろう者の記憶に残り続けている一人のろう者がいる。アメリカ黒人ろう者のアンドリュー＝Ｊ＝フォスター博士（1925-1987）だ。

本発表では、「アフリカろう教育の父」フォスターの生涯と事業を紹介し、その功績を学ぶとともに、彼に対する今日のさまざまな評価についても考えてみたい。

この発表内容は、アフリカ現地調査（1997－2003）、アメリカでの文献調査とインタビュー（2003）、日本における文献調査（1998－）に基づいている。

■フォスターの生涯

アンドリュー＝Ｊ＝フォスターは、アメリカ合衆国南部アラバマ州生まれの黒人である。11歳のときに病気で失聴した。当時のアメリカでは、黒人と白人の学校が分けられていたため、フォスターは地元のアラバマ黒人ろう学校へ通った。

やがて職を得るために、北部のミシガン州デトロイトへと移住する。デトロイトでは、レストランや工場などで働きつつ、夜学に通った。苦学の末、1951年にギャローデット大学に入学する。当時のギャローデット大学は、ほとんど白人のみの大学だった。フォスターは通常4年かかる学業をわずか3年で終え、開学以降初めての黒人卒業生となった。その後もいくつかの大学と大学院に通い、修士号を取得する。

1956年に「ろう者のためのキリスト教ミッション」（註1）を自ら設立した。フォスターが自分で団体を設立した背景には、白人中心の当時のキリスト教団体に参加できなかったことがあると言われている。そして、それまでろう教育がまったく行われていなかった西アフリカに渡り、この地域最初のろう学校を設立した。以後も周辺諸国にろう教育事業を拡大し、アフリカ13ヶ国に手話によるろう教育をうち立てた。

アフリカでのろう教育事業の功績を称えられ、1970年、母校ギャローデット大学から名誉博士号を授与された。しかし不運なことに、1987年フォスターがろう学校を巡回するために乗った航空機が、中部アフリカのルワンダの山中で墜落し、フォスターは62年の生涯を終えた。ギャローデット大学でも、フォスター博士を追悼する集いが開かれた。

■教育の特徴（1） 規模

彼の教育事業の最大の特徴は、その規模である。最初にアフリカに渡ってから事故で亡くなるまでの約30年間で、アフリカ13ヶ国に31校のろう学校を設立した。世界一多くのろう学校を作った人物であろうと言われている。

彼はアフリカの英語圏だけでなく、フランス語の国々にも事業を広げていった。彼の事業のおかげで、植民地時代にろう教育が行われていなかったこの地域に、急速にろう教育が普及し、ろう者コミュニティが成長した。

■教育の特徴（2）理念と方法

フォスターの教育理念は「トータル・コミュニケーション」である（註2）。口話を排除することはしなかった。ただし、その教育には次のような特徴があった。(1) ろう者の教員が多かった。(2) 聴者教員も手話で教えた。(3) フォスターは「口話のできないこどもに訓練をさせることは時間の無駄だ」と考えていた。(4) 卒業生たちへのインタビューの中で、口話が苦痛だったという話を聞かない。

これらを合わせて考えたとき、ろう者フォスターが行った「トータル・コミュニケーション」教育の実態は、今日の「バイリンガルろう教育」にかなり近いものだったのではないかと私は考えている（註3）。なお、この教育でアメリカ手話が使われたため、西アフリカの多くの国がアメリカ手話の影響を受けた。

■教育の特徴（3）人材

フォスターが一人で広いアフリカの教育を行ったわけではない。彼とともに、この教育事業に取り組んだ多くの人々がいた。重要なことは、その全体がろう者主導の事業として行われていたことだ。

［経営者］学校経営母体であるキリスト教ミッションは、アンドリュー＝フォスターと妻のベルタ＝フォスターのろう者夫妻が中心となって運営していた。

［教職員］フォスターはナイジェリアの本部に教員研修センターを作り、アフリカ全大陸からろう者の青年たちを招いて、教員として育成した。研修センターでは、ベテランのろう者教授陣が青年たちを指導した。また、ろう者スタッフたちはアフリカ中を飛び回って各地のろう学校を監督し、有能なろう者青年たちを発掘した。おとなのろう者への教育に力を入れ、教育を担う人材として活用したことが、この事業の重要な特徴である。

まとめれば、経営者、教職員、生徒の三者の多くがろう者であり、いわば「ろう者のろう者によるろう者のための教育システム」が実現していた（註4）。

■フォスターの遺産

フォスターの死後、キリスト教ミッションは、妻のベルタ＝フォスターが中心となって続けられたが、その規模は縮小された。しかし、各地のろう者コミュニティには彼の遺産が多く残された。

アフリカの特徴の一つは、ろう者のコミュニティが教育に深く関与していることである。「ろう者がろう児童の教育をする」ということが、自然な伝統として受け継がれている。また、フォスターの影響を受けたろう者たちが、各国でろう者協会を結成する中心メンバーとなって活躍した。

さらにフォスターは、ロールモデルとしてろう者たちの記憶に強く残っている。世界中を飛び回って大活躍したフォスターは、彼らと同じ黒人ろう者だったのだ。フォスターを尊敬し、「彼のようになりたい」と言うアフリカろう者は、今も多い。

一方、彼の教育事業でアメリカ手話がアフリカにもたらされ、ろう者の手話の中に取り込まれた。現在も広い範囲でその影響が見られる。

■フォスターの評価

フォスターという人物をめぐって、いくつかの見方がある。代表的なものを紹介したい。

「ろう者コミュニティを発展させた人」（アフリカろう者の見方）

フォスターはアフリカ各地のろう者コミュニティで絶大な人気がある。ろう教育を発展させ、ろう者のコミュニティ成立をうながした。アフリカ各地のろう者たちの間で、フォスターにまつわる多くの伝説が語られている。

「アメリカン・ヒーロー」（アメリカ黒人ろう者の見方）

フォスターはまた、アメリカでもろう者の偉人として知られており、とくに黒人ろう者にとっての偉大なロールモデルとなっている。アメリカには、黒人ろう者の権利擁護に貢献した人に贈られる「アンドリュー＝フォスター博愛賞」がある。さらに、将来ギャローデット大学に銅像を建立しようという運動もある。

「アフリカにアメリカ手話を持ち込んだ人」（言語学者の見方）

一方、言語学者の一部には、フォスターを批判的に見る立場がある。この事業でアフリカにアメリカ手話が持ち込まれたため、アフリカの手話言語分布が変わってしまい、地域の手話が抑圧されたという見方である。

「教育と宗教を分けなかった人」（途上国開発の観点）

また、フォスターの事業は、つねに「ろう教育＋キリスト教布教」のセットで行われていた。途上国のろう者のための開発を考えるとき、教育と宗教を分けていなかったことについて、疑問を持つ見方もある。

■結論と展望

このように、フォスターについての歴史的評価はまだ定まっていない。ただし、次のことは確かである。「もしフォスターが事業を行わなければ、アフリカろう者コミュニティの現在の姿はなかっただろう」。結果の一部分に目を奪われ、フォスターが達成したことの全体を否定したり、忘れ去ったりしてはならないだろう。

今後は、この教育事業の内容とその効果をさらに具体的に調査することで、アフリカろう者コミュニティ発展史の全体像を明らかにすることを目指したいと考えている。

■謝　辞

本研究は文部科学省科学研究費により行われました。調査にあたり以下の諸団体・各位のご協力をいただきました。ベルタ＝フォスターさん並びにろう者のためのキリスト教ミッション、ギャローデット大学および図書館、全日本ろうあ連盟京都事務所、カメルーン全国ろう者協会とろう者・聴者のみなさん、ガボンのろう者・聴者のみなさん。またアメリカでの調査を手伝ってくれた妻の秋山奈巳にもお礼を申し添えたい。

註

(1) 設立時の名称は「ろう者アフリカ人のためのキリスト教ミッション」。後年「アフリカ人」の部分を外した。

(2) 世界ろう者会議（1975年）フォスター講演。

(3) フォスターの教育言語は、ろう者の手話ではなく音声対応手話だったという見方がある（Laneほか, 1996）。また私の調査によれば、時期や地域によって教育方法にばらつきがあった可能性もある。フォスターらの教育方法の全容解明には、さらなる調査が必要である。

(4) 聴者の教職員もいた。ただし、フォスターは研修生を選ぶとき、ろう者を優先して選んでい

たという証言がある。また、運よく研修に参加することができた聴者は、ろう者たちが運営するナイジェリアの研修センターで、3ヶ月間手話だけの生活を体験した。

■文献とウェブサイト（主なもののみを挙げました）

亀井伸孝, 2003a.「アフリカろう教育の父フォスター」『アフリカレポート』（アジア経済研究所）No.36, 2003.3. pp.36-39.

亀井伸孝, 2003b.「アフリカ諸国のろう者によるろう教育事業」『アジ研ワールド・トレンド』（アジア経済研究所）No.96 （2003.9）. pp.35-38.

Foster, A. 1975. Social aspects of Deafness: the school years. In: VIIth World Congress of the World Federation of the Deaf: Full citizenship for all Deaf people. (July 31-August 8, 1975. USA). 354-356.（第7回世界ろう者会議、1975年、アメリカ）

Lane, H., R. Hoffmeister and B. Bahan [1996] A Journey into the Deaf-World. San Diego CA: Dawn Sign Press.

Moore, M. S. & R. F. Panara. 1996. Andrew Foster. In: Great Deaf Americans. The 2nd edition. Rochester NY: MSM Productions, Ltd. 214-219.

ろう者のためのキリスト教ミッション　http://www.cmdeaf.org

※ 付記（2004年）

フォスターと彼らの事業については、連載「アフリカのろう者」（日本手話研究所所報『手話コミュニケーション研究』）でも紹介しています。ご参照ください。

「アフリカのろう者(5)ろう者たちのアメリカ観」（No. 51, 2004年3月）

「アフリカのろう者(6)アフリカろう教育の父フォスター」（No. 52, 2004年6月）ほか